

# 2018年5月20日 ふらっと南幌吟行俳句会 詠草と短評

**総評** まだ第4回の俳句会ながら、参加者の実力アップが見て取れます。季重ねは殆どなくなりました。皆さん何処で学習されているのでしょうか。新聞俳壇でしょうか、TV番組プレバトでしょうか。俳句が面白いと感じられ学習の場を広げておられればさいわいです。そうしてご自身が作り発表する場がふらっと南幌です。のどかな田園風景に鶯、郭公の鳴き声、フットパスに味の探訪とこんな贅沢な吟行は他にはないはず。佳句が沢山揃いました。更にこれからは「十七音の詩・ポエム」を意識して学習されると宜しいとおもいます。 俳句会司会 藤田ひろし

1	「ぼろろ」への径果てフットパスの汗	澄子
2	勿忘草摘めば天まで雲越えて	澄子
3	雨集め逸る春川野はのどか	そうきち
4	「逸る」と「のどか」の対比が幌向の春を上手く表現。芭蕉の「五月雨をあつめて早し最上川」と対比しても面白いでしょう。	そうきち (1点)
5	代田這うさざ波前へガイドさん	純太郎 (2点)
6	「代田」と「さざ波」は俳句に普通に詠まれる表現ですが、「這う」と「前へ」が生きて動きが鮮やかです。	
7	土手の道野の花香る初夏の風	
8	「土手」と「野」が重なるので中七を替えると良いでしょう。	
9	「土手の花撫でて通りし初夏の風」	
10	ヨモギ摘み食べる喜び風薫る	イチロー
11	当日のふらっと南幌そのものです。「風薫る」を「風に乗り」など軽やかにしてはどうでしょう。季重ねも解消されます。	
12	新録やいたどり食すフットパス	みつたん
13	新緑は美味いと思わせてくれます。食すのはフットパス後なので、「新緑や野草摘み摘みフットパス」でどうでしょう。	
14	山菜の天ぶら食す初夏の宴	ヒサシ
15	無理のない詠い方に好感がもてます。「宴」の場所が見えると句がくつきりします。例えば「山菜の天ぶら食す夏木立」、「夏河原」などでも	
16	風薫る運河のほとりフットパス	ヒサシ
17	「運河」と「フットパス」に季語「風薫る」がびたりと決まり爽やかです。	
18	春の野良耕作休め露を摘む	木村 (1点)
19	写生句に自分の姿が入ります。さらに心象が映されると特待生でしょう。	
20	カッコウ鳴く急かすな今はフットパス	木村 (8点)
21	上五で長閑を詠うと思いきや吃驚、これも俳句の楽しさ。	
22	ほろむい街道にしえの想いヒメオドリコの香	おはなちゃん
23	三段切れを直し中七音はまもりたい。	
24	「幌向の古おもふヒメオドリコの香」でどうでしょう。	
25	小麦畑ひばりの声の軽やかさ	おはなちゃん
26	生命力に溢れる「ひばりの声」に我等の心も軽くなります。「小麦畑」を配したのも良いですね。	

14	空青く映る早苗田雲一つ	ヨッコ (1点)
15	早苗田に反転して映る空に雲が一つ、これだけの大景を十七音にまとめてみごと。	
16	太古から大地みつめし二輪草	ともこ
17	この大地の変遷を二輪草を通して観察する作者、ん万年も十七音に収まる面白さ。	
18	きらきらと吟行びより早苗田と	ともこ
19	下五に続く省略が曖昧となり勿体ない。	
20	「早苗田のきらきら吟行日和かな」でどうでしょう。	
21	カルガモの着水シヨウは早苗田で	より子 (2点)
22	「着水シヨウ」が秀逸。見ているごとく前後の動きが映像化されます。	
23	フットパスなすなたんばば花ロード	より子
24	明るいブーケのロードを見ているよう。楽しい時には季重なりなど気にせず沢山作りましょう。	
25	新緑の木々を透かして白い峰	豊隆 (2点)
26	「新緑」と「白い峰」の対比が鮮やかで、木々に透かす配置も絶妙。余市岳が遠景にあるフットパス吟行でした。	
27	あおもみじ水田に白き峰ひとつ	タケオ
28	軽やかな題材にしてこの安定感。古典的な詠い方にして納得感も十分。	
29	花苗を両手に急ぐ休日かな	マスオ
30	花にいそしむ一日が想像されます。一句から想像がふくらむのが好ましい句作です。	
31	永き日や山紫の野辺歩き	わと
32	春の野は明るさを詠うことが多いですが、色調を抑え渋く詠って魅力的です。	
33	野に立ちて仰ぎ見ている光る雲	わと
34	焦点の「光る雲」に季語を加えたいので、「春昼の野辺にぼつねん光る雲」。句作の本意は、「彷徨ふ」が近いでしょうか。	
35	「春暁」や「春夕」に置き替えた推敲も楽しいですよ。	
36	耕運機マオイ山に行きつ戻ること	ひろし
37	雑草と云うやパンケの春長けて	ひろし